

昨年の10倍の量を収穫 奇跡の「安産産復興米」

津波に耐え、「奇跡のコメ」と呼ばれる水稲があります。津波で安産地区に流れ着いた種もみが、その年の秋に、がれきの中で、3束の稲を自生させました。昨年、5.5キロの種もみが収穫され、今年は、その10倍ものコメが実りました。関係者は、「安産産大槌復興米」として、市場に出荷できる日を夢見ています。

震災が起きた2011年秋、安産地区に住んでいた菊池妙さん(72)は津波で流された自宅玄関脇で、自生している稲を見つけました。安産地区は漁師町。水田はほとんどありません。津波で、どこからか流れてきた種もみが実ったのでしょう。刈り取って、「安産産大槌復興米」と名付け、150株の苗を作ることに成功しました。昨年秋、この苗から5.5^{キログラム}の種もみを収穫することができました。

今年は、この種もみから育てた苗を、約1,000平方メートルの広い田んぼに移し、5月に田植えをしました。そして、秋の収穫期を迎えた9月24日、地元の人たちや、被災地



を支援している岩手県遠野市の「遠野まごころネット」のボランティアの人たちが鎌で刈り取り、はさがけして天日干ししました。実ったコメは約500キロ。大半は、来年の作付用種もみとして残すことにしています。

地元の白澤康弘さん(72)は「豊作でうれしい。稲の生命力には驚かされます。大きく羽ばたいてほしい」と話しています。

海に入った神社の神輿 赤浜八幡神社例祭

赤浜の八幡神社の例祭が10月20日に催され、神輿が海に入って祭りを盛り上げました。3年ぶりの祭りを前に、神輿は山梨県の寺から寄贈され、地元の虎舞の山車は新調されました。例祭では、神輿と郷土芸能団体が行列を組んで練り歩き、雨空を吹き飛ばすような歓声がかどましました。

神輿は午前8時過ぎに神社を練り出しました。地元の陸中弁天虎舞のほか、安産虎舞、大槌城山虎舞、向川原虎舞、上京鹿子踊、安産大神楽などの郷土芸能団体が神輿をはさみました。一行は、虎舞の掛け声に乗って、旧赤浜小グラウンドや仮設住宅を回りました。

神輿は昼過ぎ、ひょうたん島が近くに見える広場から海に入りました。虎舞も海に入ってはやし立てました。2回、3回と繰り返し海に入り、神輿の担ぎ手の装束も、虎舞の衣装もずぶぬれになりました。



神輿は大小2基。今年7月半ばに山梨県富士川町の寺から寄贈されました。大は高さ1.5メートルで1メートル四方、小は1メートルで80センチ四方。漆塗りの屋根と、四方を囲む鳥居が特徴です。一方、被災した陸中弁天虎舞の山車は、遠野市の宮大工さんの手によって再建されました。

山田線走るSLの雄姿 鉄道マニアが町に寄贈

京都市内に住む鉄道マニアの奥さんとその妹さんが、10月9日、町を訪れ、大槌を走るSLの雄姿を撮影した写真3枚を寄贈しました。町並みを背に走るSL、鉄橋を渡るSL、大槌駅のプラットフォーム。震災前の懐かしい記憶がよみがえります。

写真を寄贈したのは京都市の佐竹保雄さん(81)。学生の頃から鉄道写真を始め、京都市役所に勤務しながら、全国各地を巡ってSLを撮影しました。東北地方には46回、足を運び、2011年夏に京都で、「東北を旅して」と題した催しを、2013年3月までに5回開催しました。また、2005年には福音館書店から、「おじいちゃんのSLアルバム」を出版しました。

佐竹さんは、被災地を支援したいと、写真を町に寄贈することを思い立ったそうです。所属する同志社大学鉄道同好会OB会の所属メンバーに呼びかけ、大槌町に関連する写真3点をそろえました。佐竹さんの妻の紀美子さん(74)



は写真を寄贈するため、10月9日、町役場に碓川豊町長を訪ねました。紀美子さんは「思い出の写真で、被災地の皆さんを元気づけることが出来たらうれしい」と話しました。

写真は寄贈された1枚で、1969(昭和44)年に井原実氏が撮影した、大槌の町並みを背に走る重連のSLです。

なお、写真は11月中旬から中央公民館2階ロビーに展示する予定です。

風化させまい「あの日あの時」 盛岡で大槌の写真展

東日本大震災の時に大槌町民が撮影した写真展「リメンバー大槌」が、10月に盛岡市内で開かれました。全国を巡回し、県内では初めての開催です。津波にのみこまれる町、がれきの中をさまよう住民……。当時の写真は、震災のすさまじさ、非情さを伝え、見る人の胸を打ちました。

百貨店カワトクの会場では、震災が起きた2011年3月11日から数日間、10人により撮影された25枚が展示されました。いずれも、緊迫感、臨場感にあふれた写真です。開会初日の10月12日に訪れた盛岡市内の浅沼英弘さん(70)は「一枚一枚の写真に圧倒されました。震災を忘れてはならないと強く思いました」と語ってくれました。

もりおか復興支援センターの会場では10月19日に町民報告会があり、撮影した人も含めた被災者が当時を振り返り、復興への思いを語りました。

写真展は、今年3月の東京・有楽町を皮切りに、京都、



三重、大阪を巡回展示し、反響を呼びました。企画した元朝日新聞報道カメラマンで岩泉町出身の八重樫信之さん(70)は「時代を経ても、写真には当時の様子を伝えてくれる強さがあります。写真は、あの時を風化させてはならないと訴えかけてくれています」と話しています。